

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C133	17-312	慶應義塾大学 加藤眞三
題名(原題/訳)		
<p>Australian adolescents' beliefs and help-seeking intentions towards peers experiencing symptoms of depression and alcohol misuse.</p> <p>鬱病とアルコール誤用の症状を経験しているオーストラリアの若者の信条と仲間への援助を求めている意思</p>		
執筆者		
Lubman DI ^{1,2} , Cheetham A ^{3,4} , Jorm AF ⁵ , Berridge BJ ^{3,4} , Wilson C ^{6,7} , Blee F ^{3,4} , McKay-Brown L ^{8,9} , Allen N ^{10,11} , Proimos J ¹² .		
掲載誌		
BMC Public Health. 2017 Aug 16;17(1):658.		
キーワード		PMID:
青年、鬱病、アルコール誤用、ピアサポート		28814325
要旨		
<p>背景: 多くの若者は精神的健康問題の専門の救済策を求めるのを嫌い、友人にサポートを依存するのを好む。従って、若者が彼らの仲間の心理的苦痛の徴候を確認でき、仲間にそのことについて語ることができ、彼らの必要に応じた適切なサービスへの接近を援助することができることを確実にすることは重要である。本研究は、友人が持つ鬱病とアルコール誤用の症状を認識し、援助を求めることに対する難しさに気付く能力を、認められた障害とピアを非公式および公式的援助ソースの範囲から援助を求めさせる意思を調べた。</p> <p>方法:</p> <p>本研究は、精神衛生と物質使用問題(MAKINGtheLINK)の専門の救済策に接近することに対する障害を解決する方法を若者に教える学校ベースの介入の無作為対照臨床試験からのベースライン・データを使用した。参加者(n=2456)は、それぞれ鬱病とアルコール誤用を描写している2つの描写を紹介され、述べられる症例の問題を同定するよう質問された。参加者は、それらの過去の援助を求めている行動、ピアを助ける自信、援助を求めることに対する認識の障害、仲間に援助を求めさせる意思に関するデータを提供した。</p> <p>結果</p> <p>参加者が抑うつ症状に関して援助を頼る主な対象は医療専門職であり、そして、友人と両親がその後続いた。一方で、アルコールと他の薬物の関連問題に関して頼る主な対象は友人であり、医療専門職と両親がその後続いた。ちょうど半分以上の参加者は2つの描写で述べられる問題を正しく同定した。しかし、大多数の参加者は彼らがピアに向かって話すことができ、彼らが必要に応じて専門の援助を求めるのを援助することができるかと確信していた。それらの描写が専門の援助を必要としていることについて大部分は同意していたが、参加者の約半分は彼らが類似の問題を経験する場合、自分自身が援助を求めることについては不確か、ありそうにないこととみなした。両方の障害において、仲間はそれらの家族に対して援助を求めるように促しそうであり、公的援助ソース、友人にと続いた。</p> <p>結論:</p> <p>結果が公的援助ソースを利用するというより大きな意思を示す一方で、特に鬱病においては、仲間が精神衛生と物質使用問題を経験している若年者のサポートの重要なもとである。</p>		